

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500138		
法人名	株式会社 グレープ由利		
事業所名	グループホームいなほ		
所在地	由利本荘市大浦字八走123-7		
自己評価作成日	平成28年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「いつも笑顔で なかよく ほのぼのとした施設になるように、利用者
と職員は家族であるとの思いを持って、業務にあたっている。一人一人の現在までの生活
を大事にし、人生の先輩として敬い、尊敬と感謝の気持ちをもって接するようにしている。事
業所が、早く地域にとけこみ、地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるよう、町内会行事など
への参加や日常のあいさつ・言葉かけを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価で課題として挙げられた項目(地域とのつながり、運営推進会議の取り組
み)については、いずれも達成されていることを確認できた。
「いつも笑顔で なかよく ほのぼのとしたホームであるように」という事業所の理念に基づ
き、職員個々に毎年目標をホーム内に掲示し、意識高揚に繋げている。開設から3年ではあ
るが、各種書類がよく整備され、特にケアチェック表や医療機関連携シート等については
日々の業務にうまく活用されている。運営推進会議では、毎回出席者から活発な意見・提
案が出され、カメラや車いす体重計の設置、防犯講習会の実施などサービス向上に繋がっ
ている。
今後、現場スタッフをはじめ、できるだけ多くの職員が一堂に会して研修報告や意見交換
できる場面設定の頻度を高めることで、更なるサービスの質の向上が期待できるものと思
われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲げている事業所の理念は、開設時に職員全員で考えたものである。それを実践するために、職員一人一人の理念を施設内に掲げ、サービスに繋がられるよう努力している。	事業所の理念に基づき、今年度からは1号館、2号館それぞれのユニットの理念を掲げている。更に、職員個々の毎年の目標をホーム内に掲示し、意識高揚に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や町内のお祭りには、役員が出席している。町内の夏祭りに今年初めて利用者と一緒に参加させてもらった。避難訓練やいなほ祭りには、町内の有志の方が参加してくれた。	砂子町内会に加入。今年の夏祭りには初めて利用者也参加し、町内の方々と交流することができた。ホームが小学校の通学路に面していることから、日常的に子供たちと挨拶を交わしたり、登下校の様子を窓からながめることが暮らしの一部となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内の方には、地域の交流の場として活用して頂きたいと話し、認知症の相談が来たら対応できる体制は整えているが、まだ相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政・駐在所・町内の会長、副会長・老人クラブ会長・家族の代表の方の参加を得て開催し、実績や行事等を報告している。防災を含めた災害時の対応等、たくさんのアドバイスを頂き訓練にいかしている。	運営推進会議では、出席者から毎回活発な意見が出され、具体的なケアの実践に活かされていることが議事録から確認することができた。特に、災害対策に関する提案については具体的な避難方法について提案されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回長寿支援課職員に参加して頂いている。利用者の状況やケアで困った時は、相談しアドバイスを得ている。	長寿支援課職員が毎回運営推進会議に参加している他、日常的に利用者の状況報告や相談をしやすい関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修で身体拘束の廃止に関して学び、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠をしないことで、無断外出する人もいるが、戸を開いた時に知らせるセンサーやカメラを活用し、見守りを強化している。	実施事例はない。本人・家族の了解を得て、玄関及び館内(建物の構造上、死角になる場所がある)にカメラを設置している。予測されるリスクを軽減し、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫をしている。身体拘束廃止委員会を設置し研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で、虐待防止について学び虐待防止に関する知識や認識の強化に努めている。施設外でも虐待を疑われる事例を発見した場合には、通報する義務があることも勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役員・管理者・職員2人が、成年後見制度についての研修会に参加している。その後職員研修をし、勉強している。必要な時は、情報提供できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で、十分な説明を行い納得して頂いてから契約するようにしている。料金改定時は、事前に情報を流し電話で説明し、具体的な数字を出して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の会話や家族の面会時に、家族と話す時間を作り、意見を伺い運営に反映させている。家族会を開催し、意見や要望を伺う機会をもうけている。いなほ祭りの後には、アンケートをとりいろいろな意見を頂いている。	職員3人1組の居室担当制を設けている。毎月発行の「おたより」を送付する際、本人の日常生活の様子、健康面について担当職員が書面で報告している。個別の報告をすることで、家族からも気軽に意見等を伝えられるような機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の人数も少なく、管理者や職員は常に一緒にいるので、職員は日常的に思ったことや意見を述べてくれる。毎月の各種委員会や会議等で、話し合う機会をもうけたり、職員にアンケートをとり要望等を聞く機会などを持ち、出された意見は運営に反映させている。	各種会議(ユニット、定例、職員)や委員会(感染症対策、事故防止、身体拘束廃止、サービス向上、法令遵守、防災)で様々な話し合いがなされている。また、年2回、無記名で職員から意見聴取する機会を設け、職員の声に耳を傾ける努力をしている。	各種会議の開催はされているが、現場スタッフをはじめ、できるだけ多くの職員が一堂に会して意見交換できる場面設定の頻度を高めることで、更なるサービスの質の向上が期待できるものと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況を把握し、働きやすい職場になるよう配慮している。職員のスキルアップができるよう、資格取得等についての情報を提供したり、資格取得のために勤務調整など配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、「施設の商品は、職員である」という考えで、職員の経験や習熟度に応じた外部研修への出席や内部研修を積極的に進め、職員の質の向上に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他施設職員との交流や研修に参加している。懇親会にも、役員・管理者・職員の4名で参加し、親睦を図り情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで本人と面談し、安心して入所して頂くように努めている。入所後に声掛けや傾聴を多くし、本人の安心や信頼関係を築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で、家族の困っていることや要望を伺い、サービス内容について説明している。入所させることに家族が後ろめたさを持たないよう、充分家族の思いを受け止めるように努力している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の大先輩として敬い、昔からの行事や食べ物、山菜等の料理を教えてもらっている。家事なども一緒に行っている。おやつ等もみんなで作り、利用者も職員も一緒に食べる機会を多く設けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真を添えたお便りを発送している。訪問時や電話で状況を伝えたり、ケアで困った時は家族に相談している。病院受診時や消耗品の購入等できる家族には依頼し、利用者と家族の関係が途切れないようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの美容室に連れて行っている方がいる。ドライブなども利用者の出身地を考慮して行っている。家族のみならず、親戚・友人の訪問も多い。	理美容は入居後も行きつけの店を利用、ドライブ外出は利用者個々の馴染みの場所を考慮しながら行き先を選択、家族や友人の来訪が多い等、本人がこれまで培ってきた人間関係や地域との関りが閉塞的にならないよう努力していることが伺われた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や感情の変化を把握し、利用者同士が仲良く生活できるように職員が、配慮している。お互いを思いやる場面が多く見られる。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調が悪化し退所した方がいるが、退所にあたって、病院退院後引き継ぐケアマネと家族を交え、話し合いの機会をもった。家族が納得し、退院後も安心し生活できるよう配慮した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴することで、利用者の思いをくみ取り、その人らしく生活ができるよう、職員との日々の会話やカンファレンス等で、話し合っている。	縫物が得意な方、折り紙が得意な方、絵を描くことが好きな方等、個々の利用者の思いをくみ取り、その人らしく生活ができるよう日々の会話はもちろん、月2～3回の頻度でカンファレンスを行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、実践している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネや家族、本人からの情報はもちろん出来るだけ集めているが、入所してから本人と普段の会話から知ることが多いので、日常できるだけ会話をする機会を多く作っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・介護記録・チェックシートや医療連携シート・申し送り等で、現状把握と情報を共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の来訪時や電話にて意見を伺っている。3ヶ月に1回カンファレンスを行い、話し合いを持ち、それを介護計画に反映させている。	7領域に及ぶケアチェック表を活用し、問題点や解決すべき課題等について話し合い、介護計画に反映させている。また、家族の意向は、来訪時や電話で確認している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表を基に、申し送り等で情報を共有している。日々変化のあった時は、その都度話し合いを持ち、介護計画の見直しに反映している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容・美容は地域の美容院に連れて行ったり、訪問美容をお願いしている。地域の夏祭りに参加させてもらったり、利用者の描いた絵を地域の祭りで展示してもらっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、家族の希望で協力医療機関に変更した方もいる。歯科は、入所前に利用していた歯医者にかかる方もいるが、協力医療機関の歯科に通院したり、訪問歯科を利用した方もいる。どちらも家族や本人の意向を確認している。	入居後、医療機関を変更した方もいるが、本人・家族の希望に沿ってかかりつけ医への通院支援をしている。薬局との関係も良好。歯科のかかりつけ医の往診を受けた方もいるなど本人が馴染みの医師等による継続的な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、定期的に週4日加えて利用者の状況に応じて、必要な日に出勤する。また利用者の状況悪化時には、昼夜を問わずに対応し、医師や病院看護師との連絡・家族への状態説明、職員への指導等をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院への情報提供を行い、入院中は家族との情報交換や病棟を訪問して状態を確認し、退院前には病院で、家族も一緒に担当者会議を行い、退院後の支援が適切に行えるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・末期に対しての指針を説明し、同意を得ている。その時々、合わせたケアの方法を家族とも話し合い、実践している。日頃より、予防に力を入れ現在の機能が維持できるように働きかけている。毎日ラジオ体操など声掛けし日課にしている。	看取りの実践事例はない。事業所の重度化対応の指針の中で、看取りはせず、本人・家族、ケアマネージャーなど関係者と連携しながら次の生活拠点の確保、スムーズな拠点移動ができるよう配慮する旨明記し、入居時に了解を得ている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全ての職員が、普通救命講習を受講し、1名が上級救命講習を受講している。看護職員が、施設の近くに住んでおり、緊急時はすぐに駆けつけてくれる。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災・日中火災・地震・停電時を想定し、消防職員や地域住民の参加を得て4回避難訓練を実施した。災害時の対応等、運営推進会議等で地域の方と話し合い、避難場所の確認等を行っている。	事業所が作成した詳細な「消防計画」が整備されている。AEDも設置されている。夜間火災、日中火災、地震、停電等を想定した避難訓練が近隣住民の参加を得て実施されている。運営推進会議で避難訓練の結果報告をし、委員からもらった様々なアドバイスを次の訓練に活かしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修を行い、馴染みやすい様に方言で話をする場合でも、個々の性格や尊厳をもって声掛けするようにしている。トイレ誘導も他利用者がある所で、大きな声で誘導しないように気をつけている。	トイレ誘導をさりげなくすることや、大きな声で話さないなど一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。新任研修では、特にプライバシーへの配慮を徹底するよう強調している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを一番大事にしたケアを職員は心がけ、こまめに声掛けしている。表現できない方は、表情やしぐさから本人の思いをくみ取り、対応している。申し送り等で連絡を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全第一に一人一人の状態に合わせた対応をしている。日中のほとんどを居室で趣味活動をしている方もいる。食事時間の長い方は、少し早めに提供したり、最後までゆっくりと食べれるよう配慮している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望を聞いて、散髪・髪染めをしてもらっている。希望があれば、乳液・クリームや口紅の購入をしている。定期的になじみの美容室に行く方もいる。着替えをする時は、職員と一緒に選んだりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理できる人には、職員と一緒にってもらっている。立ち仕事のできない人は、盛り付けや食器拭きをしている。行事食や季節に合った食事を楽しむことができるようにしている。太巻きや笹巻き作りなど職員と一緒にやっている。	食材配達の業者から、メニュー、調理方法などを提示してもらっている。盛り付けや食器拭きなど、できる範囲で利用者個々の役割づくりに配慮している。サービス向上委員会では、嗜好調査の結果を踏まえ、利用者の希望メニューの提供を行っている。また、職員が利用者から作り方を教えてもらいながら笹巻き等を作ることもある。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスの良い献立である。食事量や水分摂取量を記録し、適切な量になるよう声掛けしている。食べれない食材については、代替品を準備し対応している。一人一人にあった、食事形態にし提供している。飲み物にも工夫し、本人が好むものをできるだけ準備し工夫しながら提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に合った口腔ケアの支援をしている。歯磨きコップや歯ブラシの消毒も定期的に行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿取りパッドやリハビリパンツを履いている人はいるが、全員トイレで排泄している。排泄記録をつけ、排泄パターンを把握し尿意のない方は、トイレ誘導している。	排泄記録の活用で利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事と十分な水分補給に気をつけている。便秘がちな人には、冷たい牛乳を提供したり、本人の希望によりヤクルトを購入している方もいる。排泄記録を見て、服薬調整したり個別に対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴であるが、入浴時間帯(午前・午後)や入る順番は、本人の意向や身体状況・処置の必要性等により、調整している。同性介助の希望も確認し、対応している。	週3回実施。1対1で会話を楽しみながら介助している。同性介助を希望される方には、意向に沿って対応している。入浴を拒否される方には声掛けで足浴だけでも対応できるよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具はほとんどの方が、自宅から持ってきたものである。休息は一人一人が自由に居室でとっている。日中は、出来ることをして頂いたり、運動や活動量を多くし夜間眠れるように配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が個々に仕分けした薬を職員が手渡し、飲み込みまで確認している。お薬情報のファイルを作成し、誰でもすぐ見ることができる。薬が変更になった時は、医療連携シートや申し送りノートに記載し、状況にすぐ対応できるようにしている。家族が付き添って受診する場合は、家族に状況を報告している。受診や往診の際は、事前に情報を主治医に伝え状況にあった薬を処方して頂くようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理の手伝い・盛り付け、食器拭き・洗濯干し等出来ることをして頂いている。落ち着いた人の面倒を見たり、歌で場を盛り上げる役割の方もいる。本の好きな方は毎月図書館の本を借りられるようにしている。おやつ作りや作品作り、ドライブや行事等で、楽しく生活できるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけては、散歩・ドライブ・外での食事等、外出の機会を多くもうけている。季節を感じてもらえる行事・行き先を考慮している。職員と一緒に買い物に行けるように考慮している。	日常的な散歩の他に月2～3回の頻度でドライブ等外出の機会を設けたり、医療機関への受診の帰りに買い物を楽しむこともある。また、月1回、市の図書館(カダーレ内)から気に入った図書を借りるなど利用者一人ひとりの状態に合わせた外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想の方もいるので、トラブル防止のため小遣いは、施設で管理している。お金を持っていないと不安な方は、少額のお金を自己管理している方もいる。毎月家族に小遣い帳のコピーを送付している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば対応している。家族から電話があった時は、本人に電話をとりつぎ話をしてもらっている。手紙を出したい方には、切手の購入や差出の支援をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに畳がしかれたスペースがあり、足を伸ばして座ったり、洗濯物をたたんだりしている。見える場所に洗濯物が干され、家庭と同じように調理の臭いがし、食事を楽しみに待つことができる。	訪問時、昼食後も居室ではなくリビングでくつろがれている方が多く、共有空間が居心地の良い場所、安心感のある場所となっていることが伺われた。畳敷きのスペースで利用者が洗濯物を畳んだり仕分けをしている姿に、生活感のある暮らしの場の一端を垣間見ることができた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと離れた場所にイスを置き、そこで休憩できるように配慮している。外の景色を見ながら、ゆっくりとお話する空間がある。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台付きの居室には、ベット・タンス・加湿器を施設で準備している。馴染みの使い慣れた物の持ち込みは制限していないため、仏壇やご位牌・テレビ・イス・写真等持ってきている。	洗面台、ベット、タンス、加湿器、エアコンなどが備品として設置されている。利用者個々に、馴染みの使い慣れた物を持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるよう工夫されている。また、居室で落ち着いて趣味活動ができるよう配慮されており、訪問時、絵画制作に取り組んでいる方や折り紙で装飾品を作っている方の様子を伺うことができた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に合わせて安全に、移動できるように手すりを取り付けている。杖やシルバーカー・歩行器を使用している方もいる。ベットから安全に立ち上がりができるように、必要な方にはベット柵を取り付けている。居室の名前やトイレの表示は、目の高さに合わせ分かりやすいよう工夫している。		